

2月15日から始まった議会ですが、37日間の日程が終わり、すべての議案が可決成立しました。

新年度予算は、「新市財政計画」とは大きく乖離し、歳入歳出のつじつまは合わせてあるものの、行財政改革の「ぎの字」も見えず、人件費は増加。物件費に至っては、半年前の新市計画の50%も増加するありさま。何とも言いようがない杜撰さです。

市長は、まったく悪びれもせず、合併プロジェクト責任者は「見通しが甘かった」の一言。どう甘かったのか、その甘さをどう改善していくのかを示さぬままの閉会であったこと、議会もそれを容認したままで合併をただ喜んでいてよいのか、疑問の上にも疑問です。

決定した以上は、いかにして、現状のデメリットを少なくするのか、金をかけずに、住民サービスを向上させる努力をするのか、住民に対しても、「あれもこれも何でもオーケー」などと無責任なことを言わず、行政のサービス提供の責任は、どこまでなのかを確認すべき時にきていると私は思います。

今回のような大災害のような未曾有の危機に、日本の経済自体が揺らぎかねない時期に、こんなに安易に構えていてよいのかとも思います。私とて、わが国の底力を信じてはいますが、それには、平和ぼけから脱却しなければなりません。

最終日、大甘の23年度予算には、反対しました。詳しくは、議会発言のメニューをご覧ください。